



◆生育状況・当面する重点作業について

1. 生育は、昨年より3～4日程度遅れている。
2. 新梢・徒長枝が伸びているので、適正に整理する。
3. 乾燥が続いた場合は適時にかん水を実施する。降雨が多い場合は、排水対策を実施する。
4. 樹体が日焼けで傷まないように保護する(新梢を置く・ワラを巻くなど)
5. アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。

《プルーン・すもも》

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除: 定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
 2. 耕種的防除: 園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
 3. 処分方法
 - ①被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - ②土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - ③厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - ④放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。
 4. 被害果の特徴
 - ①アメをだす。
 - ②果面に地図を描く。
 - ③果面が黄色や紫色に変色。
 - ④落果している。
- ※なお、市場に出荷した生産物に被害果が混入し、出荷者が確定できるクレームがあった場合は、例年と同様にその出荷者のクレームとなった数量の精算をゼロとすることになっております。荷造りに際しても厳重に選果して出荷をお願いします。

◆ナシヒメコン第2回取り付けについて 実際設置日記入 月 日

スモモヒメシンクイ対策として、7月上中旬が設置時期となりますので、忘れずに設置する。
設置本数: 10a 当たり50本

◆第11回薬剤散布について

1. 散布時期: 7月12日(土)～16日(水) 実際散布日記入 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
(展着剤 まくぴか)	10mℓ	—	—
(パレード15フロアブル)	33mℓ	灰星病	前日
㊸パリアード顆粒水和剤	50g	シンクイムシ類	前日

※収穫中又は収穫に近い品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。

3. 散布量: 10a当り⇒400ℓ
4. 留意事項
 - ①降雨が多い場合は灰星病対策として、パレード15フロアブル3,000倍を加用散布する。パレード15フロアブルに代えて、㊸カナメフロアブル4,000倍(水100ℓ当り25mℓ)を使用してもよい。
 - ③収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
 - ④「収穫前日まで」とは収穫する24時間前までに散布が終了することを意味する。
 - ⑤果実の汚れを防ぐため、なるべく細霧にして、すぐに乾く時間帯で散布する。
 - ⑥通常、この時期からは農薬による汚れや果粉溶脱を軽減するため展着剤を使用しないが、シンクイムシ類・灰星病の発生が多く、薬液をしっかりと付着させたい場合は、展着剤を「まくぴか」10,000倍を使用すると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。

◆**収穫前薬剤散布について ※収穫直前の品種Iに行く。**

1. 散布時期: 収穫開始2日前 実際散布日記入 月 日

2. 調合量: 水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
オンリーワンフロアブル	50ml	灰星病	前日
(㊟スカウトフロアブル)	50ml	シンクイムシ類	前日

3. 散布量: 10a当り⇒3500

4. 留意事項

- ①「収穫前日まで」となっている農薬は、収穫24時間前までに散布が終了する事を意味する。
- ②シンクイムシ類の発生が心配される園は、スカウトフロアブル 2,000 倍を加用散布する。スカウトフロアブルに代えて、ディアナWDG5,000 倍(水 1000当り 20g/収穫前日)を使用してもよい。

◆**プルーン早生種・すもも収穫講習会及び出荷目揃い会
・プルーン3Kバラ荷造り講習会の開催について**

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
7月10日	木	午後 1:30	西部流通センター	徳武
7月11日	金	午前 9:30	若穂果実流通センター	寺澤

※講習会以降が出荷始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。

荷受開始前でも対応致しますので、各流通センター・共選所までご相談下さい。

また、講習会以降でも、未熟な場合は、適熟になってからご出荷下さい。

※川中島地区・更北地区については果樹技術員までお問い合わせください。

※プルーン3Kバラ出荷申込書は、講習会にて配布いたします。

《**あんず・うめ共通**》

◆**礼肥の施用について**

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
7月(収穫後)	有機専科	10a当り2袋	月 日

※樹勢の中庸～弱めの樹に施用する。(強勢な樹や若木は見合わせる。)

◆**コスカシバ対策について**

杏の場合は6～10月まではっきりしたコスカシバの最盛期がない。

被害樹は樹勢が弱まったり胴枯病が発生しやすくなる。

樹脂と虫糞の混ざっている箇所を削り補殺するか、木づちで叩いて潰す。(雨上がりが良い)

《**オウトウ**》

◆**夏季せん定について**

1. ノコギリを使うような大枝の剪定は、例年では収穫後の梅雨期間に行うっているが、梅雨が早く開けたので、切った場合は切り口が乾燥する前にトップジンMペーストを塗布する。
または降雨が続く日に切除する。
2. この時期に行うことにより枯れ込みを 방지、花芽の充実を図ることができる。
3. 太い枝を切る場合は幹から30～50cm 離して切る。
4. 落とす枝葉は、3割程度とする。それ以上落とすと樹勢低下を招く。

◆**礼肥の施用について** ※強勢な樹や若木は見合わせる。

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
7月(収穫後)	有機専科	10a当り2袋	月 日

《なし》

◆**第9回薬剤散布について**

1. 散布時期:7月11日(金)~7月15日(火) 実際散布日記入 月 日
 2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
カネマイトフロアブル	100mℓ	ハダニ類	前日
ナリアWDG	50g	黒斑病・輪紋病・うどんこ病	前日
㊟オリオン水和剤	100g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	3日

3. 散 布 量:10a当り⇒棚栽培450ℓ/立木栽培500ℓ以上

4. 留意事項

- ①カネマイトフロアブルに代えて、マイトコーネフロアブル 1,000倍(水100ℓ当り100mℓ)を使用してもよい。
 ②西洋なし「ル・レクチェ」は、袋掛け前の場合、薬害が発生するため、ナリアWDGに代えて、オキシラン水和剤を500倍(水100ℓ当り200g)
 ③オリオン水和剤に代えて、スミチオン水和剤40の1,000倍(水100ℓ当り100g・有袋収穫14日前まで・無袋収穫21日前まで)を使用してもよい。